

1 教科名 第3学年英語科

2 単元名 Daily Scene 1 食事の会話（東京書籍 NEW HORIZON 3）

3 タブレットの使用方法

教員1台の使用

グループ1台の使用

生徒1人1台の使用

4 単元計画

時数	内 容
第1時 (本時)	教科書本文の内容理解・音読練習
第2時	プレテスト（教師からの助言）、パフォーマンステスト

5 本時

(1) 本時のねらい

食事での会話を通して、実践的な英語の知識・表現を身につける。

自分の音声を聞いたり、表情や口の動かし方を客観的に観察したりすることで、発音やイントネーションを改善して、表現力を高める。

(2) 本時の展開

学習の流れ	主な学習活動	指導のポイント（タブレット端末活用）
導入	○ミートローフを紹介し、本時の導入とする。	・画像を提示し、わかりやすく紹介する。
展開	○教科書の内容理解と音読で食事での会話表現を知る。 ○パフォーマンステストの評価基準を確認する。 ○ペアで練習する。 ○動画を撮影・再生し、イントネーションや発音、表情等を確認、改善する。	・音読練習では、デジタル教科書の音調曲線を用いて、正しいイントネーションと発音の練習をしやすいようにする。 ・タブレットの学習支援ソフトで撮影、再生する。
まとめ	○次回のパフォーマンステストについて確認する。	

## タブレット端末活用のポイント（効果・生徒の反応）



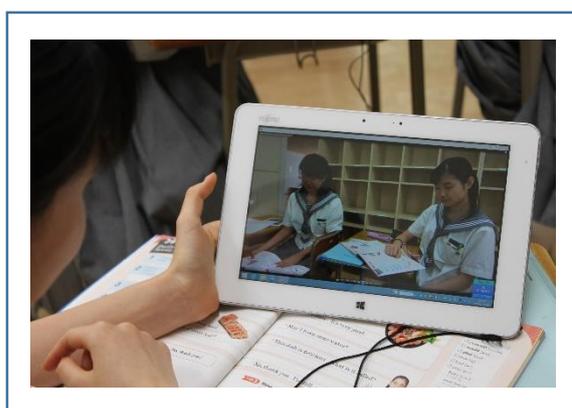
### ① 画像で関心を高める

＜活用した機能＞（ 画像の投影 ）  
インタラクティブ・ホワイトボードに教科書の本文に出てくる「ミートローフ」の画像を投影した。生徒が、新しく知る表現の使用場面を、より具体的に想像することができるとともに、アメリカの日常生活に対する理解も深めることができる。



### ② 制限時間内で暗記に挑戦

＜活用した機能＞（ タイマー ）  
本時の展開の前段で、生徒は教科書の会話を役割分担し、練習した。タイマーを使用していなかった頃は、制限がなく、生徒の活動も間延びしてしまう様子が見られたが、タイマーを使うことによって、生徒の集中力が高まった。



### ③ 動画を撮影して振り返り

＜活用した機能＞（ カメラ・動画再生 ）  
他のペアに自分たちの会話を動画で撮影してもらい、それを再生して振り返った。「思ったより声が小さい。」「発音を上手くしたい。」と、自分たちの課題に気づくことができる。また、「ここでジェスチャーを入れよう。」というような、新たな発想も出てきて、想像以上に効果があると感じた。

実践を振り返って（こんな場面でも活用できる）

自己の振り返りだけでなく、インタラクティブ・ホワイトボードに投影して、良い発表の仕方を共有したいと考えている。中学生は、上手に行うこと（他者との違い）が恥ずかしいと感じる時期である。発表することと振り返ることに慣れさせることでこの課題を解決し、プレゼンテーション能力を高めていきたい。これは将来に渡って有益であると考え。